

子どもは民主主義を 学べているのか

日時 2017年7月2日（日）13時20分～16時20分

場所 東京学芸大学小金井キャンパス S棟4階S410

近年、若者の政治参加が問われる一方で、子どもはどこで民主主義を学んでいるのか、あるいは、子ども社会は民主主義とどんな関係になっているのだろうか。いまの家庭や学校に、はたして民主主義を学ぶ機会はあるのか。本シンポジウムでは、子どもが民主主義を学ぶ機会、プロセス、および、子どもが学んでいる民主主義はどのようなものかを、様々な場面で反省的に捉え直すことから始めたい。子どもが民主主義を学ぶ場について、細辻恵子氏には家族、広田照幸氏には学校、額賀美紗子氏には人間形成の国際比較の視点から論じていただく。指定討論者には社会学者の浅野智彦氏をお迎えし、フロアを交えて議論したい。（詳細は裏面参照）

シンポジスト：

「家族は民主主義を育てているか」

細辻 恵子（甲南女子大学教授）

「民主主義を学ぶ場としての学校－現状と課題」

広田 照幸（日本大学教授）

「学校は文化的多様性と民主主義をどのように教えているか－日米比較の視点から－」

額賀美紗子（東京大学准教授）

指定討論者 浅野 智彦（東京学芸大学教授）

司会 金子真理子（東京学芸大学教授）

趣旨

若者の政治参加が問われる一方で、子どもはどこで民主主義を学んでいるのか、あるいは、子ども社会は民主主義とどんな関係になっているのだろうか。上野千鶴子は、「自分の運命を他人任せにしない、というこのところが民主主義の核心にある」と述べた上で、「民主主義は選挙や国会の中だけにあるのではない。ものごとを取り決める過程のすべてに、民主主義という道具は関係する。それならその道具に習熟するには、子どものときから、家庭や学校や地域のすべての場所で、民主主義を学んで身につける必要があるのではないか」と問いかけた。同時に上野が口にしたのは、「いまのあなたの家庭や学校に、民主主義を学ぶ機会はあるのだろうか」という心配である（上野千鶴子2016「民主主義という道具を使いこなす」岩波新書編集部編『18歳からの民主主義』）。

このような心配に応えることは容易ではない。一部のシティズンシップ教育等の試みを除いて、子どもが民主主義を学ぶ機会を積極的に組織化しようとする大人の意識は、戦後70年を経て希薄化してきたようにみえる。そのようななかで行われる諸活動は、両義的な意味を持ちやすく、子どもが民主主義を学ぶ機会にもなれば、逆になりにくいこともあるだろう。一方で、子どもは意図せざるどころで、たとえば学校・家庭・地域社会における人間関係、友人の言動、様々なメディアを通して、民主主義を学ぶこともあるかもしれない。

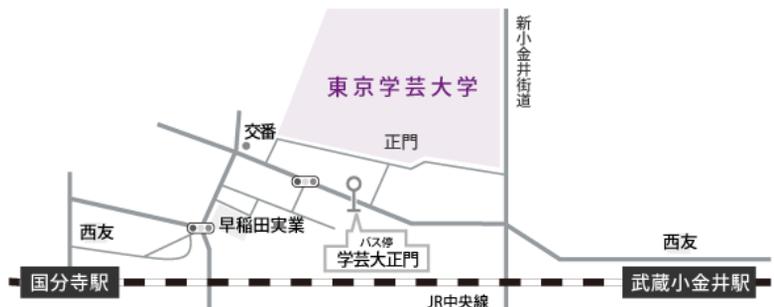
このように考えると、子どもが民主主義を学ぶ機会は、子どもの日常生活にかかわる様々な制度、組織、カリキュラム、実践、相互行為のなかで、関係論的に構築されていくものだと考えられる。だとすれば、子どもはいつどのよう民主主義を学んでいるのかと同時に、子どもによって学ばれる民主主義とはいったいどのようなものなのかという、問いも生まれてくるだろう。

本シンポジウムでは、民主主義社会の形成に向けて、子どもが民主主義を学ぶ機会、プロセス、および子どもが学んでいる民主主義はどのようなものかを、様々な場面での反省的に捉え直すことから始めたい。細辻恵子氏からは子どもや家庭の場と民主主義とが含ませる課題や論点について、広田照幸氏からは現状分析を踏まえて学校がでべきことについて、額賀美紗子氏からは人間形成の国際比較の視点から論じていただく。浅野智彦氏にはメディアからの視点を含ませつつ、三者の報告内容を絡めて討論していただく予定である。

東京学芸大学へのアクセス

- JR 武蔵小金井駅・北口より
京王バス(5番乗り場)
「小平団地」行に乗車、約10分。
「学芸大正門」下車、徒歩約3分。

- JR 国分寺駅・北口より
徒歩約20分。



- 会場のS棟は、正門を入れて左手にあるキャンパスマップでご確認ください。